# 中長期計画書

令和 7 年度～令和 11 年度

（2025 年度～2029 年度）

社会福祉法人　湘北福祉会

理事長　髙野瀬 一晃

# 社会福祉法人 湘北福祉会　中長期計画

## 目　次

P2　　1　はじめに

（１）保育理念

（２）保育方針

（３）保育ビジョン

P3　　2　法人の運営

P3　　3　保育園の経営

（１）経営方針

（２）施設・設備の整備

P6　　4　その他の重要事項

（１）災害対策

（２）地域子育て支援・地域貢献

（別　表）※ＨＰ公表なし

（１）施設整備等経費の実績と見込

（２）主要計画の項目別取組計画

# 社会福祉法人湘北福祉会　中長期計画（案）

## 1　はじめに

平成 17 年（2005 年）4 月に開園した本園は、来年いよいよ 20 周年を迎えます。この中期計画は、本園が、次の 20 年も引き続き価値ある保育実践を継続していく為の最初のマイルストーンとして、また「あゆのこ保育園丸」の航行を導く「羅針盤」となるべく作成致しました。
この計画の期間は令和 7 年度（2025 年度）から令和 11 年度（2029 年度）の 5 年間とします。

### （1）保育理念

本園は、「児童福祉法」「児童憲章」「子どもの権利条約」「こども基本法」「保育所保育指針」に準拠し、児童の最善の利益の保障、保護者に信頼される温かな支援、地域の子育て支援の充実、理論と実践の相互啓発による先進的保育の実現を目指す事を「保育理念」として、本中長期計画において策定した諸施策を通し、今後 5 年間、保育活動の更なる改善を推進していく。

### （2）保育方針

本園は、上記「保育理念」の達成に向けた諸活動を、以下の「保育方針」の下で実施する。

ア　この世に生を受けた子どもが永い人生のはじまりを「あゆのこ保育園」で過ごすことの重みを深く受け止め、一人ひとりの子どもたちに限りない愛情を注ぎ、それぞれの子どものために用意した保育を行っていく。

イ　子どもの幸せな日々が家族と共にあることを大切にし、保護者の希望に丁寧に対応し、保護者が抱えるすべての困難を受けとめ、ぬくもりを感じて安らぐことの出来る場としての保育所であり続ける。

ウ　子育てに関わるすべての人々が人間としての喜びを持って子どもを育てることができるように支援の充実に努める。厚木市の方向性を常に重視しながら時代のニーズや地域の特性を充分に理解し、真に役立つ企画や実践を行い、子育て支援の拠点となる。

エ　湘北短期大学保育学科における知的な理論構築と、「あゆのこ保育園」における愛情のこもった保育実践とが、互いに持てる力を活かしあい、学びあうことにより、未来に向けた先進的な児童福祉・保育サービスの提供を行うとともに、保育士養成教育の向上に寄与する。

### （3）保育ビジョン

本園は、目指すべき保育のビジョン（育てたい子どもの姿）を掲げて、日々の保育活動を実践していく。

ア「生きる力をはぐくむ」保育の目指す姿

・身のまわりの状況から自分の危険を予知し、気をつけて行動できる子ども
・食についての信頼できる必要な情報を得て食に親しみ、楽しむことのできる子ども
・感じたこと、想像したことを様々に表現して楽しむことのできる子ども

イ「まわりとのよい関係を作り、適応力をはぐくむ」保育の目指す姿

・よいことや悪いことがわかり、自分の考えで行動できる子ども

・他人の話を聞いて、相手にわかるように話すことができる子ども

・大人が仕事をすることの意味がわかり、手伝いをすることができる子ども

ウ「科学する心を育てる」保育の目指す姿

・四季の変化を発見し、体感することができる子ども

・なぜだろう？と疑問を持つことができる子ども

2　法人の運営

（1）法人設立の理念と展開

社会福祉法人湘北福祉会は、学校法人ソニー学園 湘北短期大学が“地域社会における児童福祉、子育て支援への貢献”を目的として平成16(2004)年に設立した社会福祉法人である。ソニー学園は設立30周年事業として、地域に貢献する福祉事業の実施を企画し、その実現のため社会福祉法人を設立し、平成17（2005）年に「あゆのこ保育園」を開園した。

保育園設立から20年が経過、少子化が進みつつある現在に於いて、これからも安定的な運営を継続していくことが最も重要である。さらには、地域にどのように貢献していけるのか、職員が安心して働ける職場環境の整備など、社会情勢や地域ニーズの方向性等の情報を把握しながら当法人の果たすべき役割を探求し実践する。

3　保育園の経営

平成30（2018）年度に園長交代という大きな変化があり、新たな体制での安定的な運営を目指してきたところである。当園の地域での認知度は高まり、市内認可保育所利用の申請者数はこの数年来、上位にある。

令和2（2020）年から令和5（2023）年にかけては新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、「緊急事態宣言」「登園自粛要請」等、過去に経験したことのない園生活を送り、感染拡大防止を最優先に業務に取り組んできた。

コロナ禍が峠を越えた現在、保育活動・行事・保護者の働き方等は通常に戻り、地域との連携や交流も再開されつつある。

令和7年度からも、あゆのこの保育理念・保育方針・保育ビジョンのもと、これまで積み上げてきた質の高い保育実践を更に高め、地域や関係機関との関りを更に深め、利用者が安心して子育てができる環境あるいは地域に頼られる子育て支援の拠点として拡充・強化を図る。

（1）経営方針

ア 保育士の確保・働き方改革への取組み

＜現状と課題＞

・保育士養成校の定員割れ、定員数の減少など「保育士を目指す」学生自体が減少。

・人材不足が続き、余裕のない保育実践現場となっている。

・保育士確保、離職の防止については厚木市の支援を得ているが、継続的な取り組

みを要請したい。

<取組の方向性>

① 財務上、人件費について重視し、毎年の人件費積立金を配慮し、余裕のある安定的な保育士配置を目指す。

② 職員の処遇向上についての継続的な検討を進める

令和 6（2024）年度から給与俸給表を改正し反映したところであるが、職員一人一人が当園で誇りを持って意欲的に働けるよう、他法人等との比較・検討を継続しつつ更なる給与改善・手当等の充実を目指す。

年間休日数については令和 6（2024）年度から改善し 117 日間に増やしたところである。今後も働きやすい職場環境について継続的に改善を図る。

③ 採用後のメンタルヘルスケア、スキルアップ、キャリアアップを充実し、意欲的に働ける環境作りに取り組む。

④ 保育実習生、職場見学者等を積極的に受け入れ、湘北短期大学保育学科との連携の深化を図るとともに、インターネットで法人の理念や園の基本方針、処遇、求人情報などを定期的に PR する。

⑤ 保育の利用時間の現状を踏まえた開所時間の見直しなど、保育士の業務負担の効率化など、働き方改革に取り組む。

イ 質の高い保育サービスへの取組み

＜現状と課題＞

・法人の理念である「児童の最善の利益の保障」「保護者に信頼される温かな支援」等を実現するために、子どもや保護者一人一人に寄り添った関り・支援を実践しているが、保育の基本方針、保育の方法等を保育士全体で共有し続けることの難しさもある。

・“保護者対応”、“特段の配慮が必要な児童の増加とその対応”等の困難さがあり、いずれも保育士の就業意欲に大きく影響している。

・社会現象課題として「園敷地内からの児童の抜け出し」「児童の取り残し」「高所からの転落」「不審者侵入」「戸外活動中の交通事故」など重大事故につながったヒヤリハット例が多く報道されている。

・湘北短期大学保育学科での特別講話、保育雑誌等への執筆・取材協力などを通して、自園の保育実践を振り返り、自らも学ぶ機会としている。

＜取組の方向性＞

① 保育の基本方針や職員によるコミュニケーションの共有

職員間の積極的なコミュニケーションで理念等の共有と理解を深め、協働の意識で支え合い、知識や技術を学び合うなど、共育ちの環境を創り、より良い保育サー

ビスを実現する。

② 保護者支援

質の高い保育サービスの提供のために定期的な利用者アンケートや保護者面談、保育参加、懇談会、行事等を実施する。保護者一人一人と向き合い、「一緒に子育て」という視点で関わり、保護者と職員とが協力して必要な改善や修正を行っていく。

③ 重大事故0の維持

子どもの命に係わる重大事故0を維持するため、安全管理研修の継続、最新の情報や知識・技術の学び、現場での振り返りを定期的に実施する。

④ 科学する心を育てる・SDGｓへの取組

園の特徴的活動の「科学する心」を軸にした戸外活動を積極的に取り入れる。地域の豊かな自然環境を生かし、季節の変化や生き物などへの関心を育み、豊かな感性を育てる。併せて、園で実践していけるSDGｓについてテーマを選定し、職員と子どもが学び、一緒に取り組む。また、近隣保育園にも学び合う機会を呼びかける。

⑤ 研究活動

保育雑誌等の執筆、取材、養成校での特別講話などに協力するとともに研究論文の作成や発表等を通して、自園の保育実践を検証するなど積極的に学びの機会を拡充する。また、保育士一人一人の豊かな気付きを生かして実践するなど、質の高い保育サービスを実践する。

ウ 出生数の減少・子育て環境の変化への取組み

＜現状と課題>

・厚生労働省の人口動態調査では、出生数が年々減少傾向にあり、令和5年の調査では出生数が73万人を切る結果となった。厚木市の「あつぎ子ども未来プラン（第3期)」に於いても、子どもの人口推移は減少傾向だが、保育対象を拡大する国の動きなどもあり、保育ニーズ全体の推移の予測は現時点では困難である。

・地元厚木市内では認可保育所が現在36園あり、定員割れが発生し始めている。更には核家族化、ひとり親家庭、外国籍の家庭、特に配慮を必要とする子ども、児童虐待など、子育てを取り巻く環境は、新たな社会問題を起こすなど多様化している。

<取組の方向性>

① 安定した入所児童の確保

法人の理念に沿った丁寧で質の高い保育を提供し、地域の信頼を継続することが最も重要。選ばれる保育所として「定員の 100%以上」を目標とする。来年度、政府が導入を目指す「子ども誰でも通園制度」については、厚木市の導入計画に沿って対応する。

② 地域子育て世代へのPR

「園見学」希望者が多く訪れる（令和5年　年間157名）ことが強みである。保育理念や保育方針を知っていただく機会と捉え、積極的に園見学を受け入れ、また HP

の活用を図る。子育て支援室等の利用も案内し、さらにマタニティの方にもご利用いただくイベントを企画するなど地域への PR を行う。

③　子育て環境の多様化に対応

園内研修・外部研修参加により、職員の専門性を高める。現代の子育て環境や支援に関する学びを深化し、多様に変化する保育ニーズに合わせた支援に取り組む。

エ 安定的な経営への取組み

＜現状と課題＞

・運営費補助金の基となる入所児童数については、現在定員を超過する 132 名の入所を継続しているが、少子化の中で今後定員割れを起こしやすい規模とも言える。

・「育児休暇」をしっかり取得する社会となり、0 歳児クラスの定員 12 名を維持するのが若干難しい状況にある。一方で、1 歳児クラスの入所については「育休明け」の申請者が非常に多く、入所が困難な状況にある。

・「3 歳になったら幼稚園に転園」という利用者が年に数名発生する。一方で「小規模保育園を卒園して、3 歳から入所したい」という申請者が増加傾向である。

＜取組の方向性＞

①　入所児童数の経過確認と対応

特に 0 歳児クラス、1 歳児クラス、3 歳児クラスの入所児童数を継続して注目し、年齢別入所児の最適バランスを計る。

（2）施設・設備の整備

<現状と課題>

施設設備において経年劣化等の不具合が発生し始めており、大規模修繕工事を含めた計画的な整備工事が必要である。園庭の固定遊具等についても同様、経年劣化が見られ、順次買い替えが必要な状況である。

<取組の方向性>

安心・安全な保育環境を維持するために、優先度を考慮しながら大規模修繕工事等を計画的に進めていく。固定遊具についても安全な更新を進める。

施設・設備計画

（別添　※「一覧表」を巻末資料とする ）

3．その他の重要事項

（1）災害対策

＜現状と課題＞

・災害発生時に園舎・園庭内に留まれない状況となった場合、広域避難場所である「ぼうさいの丘公園」への避難としているが、現実的には園児 132 名を誘導し公園内に待

機させることは困難を伴うと思われる。

・園内の備蓄をより充実させる必要がある。

・業務継続計画（BCP）が未作成である。

＜取組の方向性＞

① 二次避難場所の確保

災害発生時、児童と職員が園内外から移動せざるを得ない状況の場合は、湘北短期大学や厚木市文化会館に避難・待機する方策について、協議する場を関係先に呼びかける。

② 業務継続計画（BCP）の作成

業務継続計画（BCP）を作成し、職場内の理解を深め実践運用できるよう取り組む。

③ 備蓄品の充実

備蓄用品、備蓄食品の種類・数をより充実させるべく、業務継続計画（BCP）の作成に併せて準備し、緊急時に備える。

④ 災害時地域支援への参加

給食の調理業務を委託している「一冨士フードサービス」が、厚木市と「大規模災害時に被災市民の食事提供等に関する協定」を締結している。それを生かした災害時の地域支援について、当園も参加する方法を検討し、関係先と協議する。

（２）地域子育て支援・地域貢献

<現状と課題>

・子育て支援室「ほっとれもんてぃ」は、地域の親子が日々多く訪れる。支援室の第一の目的は「虐待予防」であり、厚木市のこども家庭センター等と連携しながら取り組んでいる。子どもの健康や食事、発達等についての相談も多く、利用者の支援につながっている。近年は、親のメンタルに関する相談等も多くある。

・今後は更に地域の小中学校、大学、自治会等とつながり「地域で子どもを育てる」意識づくりを育てる。

<取組の方向性>

① 相談業務への積極的な取組

子育てに関する相談へのニーズは高く、最速、最適支援をめざし、厚木市が進める「地域子育て相談の専任職員配置」事業に応募する。

② 地域との交流

育児講座や行事への招待、地域のボランティア受け入れ、学生の職場体験等を通して、積極的に地域とつながる機会を増やす。

（以上）